

監修の序

このたび、羊土社から“ドリルシリーズ”の一環として、「循環器の検査 基本とドリル」を発行させていただくことになりました。本シリーズは大変好評を得ており、研修中に購読する若い医師が多いと聞いています。本書の特徴は、基礎編と実践編の二部構成としており、基礎編では検査ごとの理解度を深めることができ、実践編では症例あるいは疾患ベースのドリル形式で問題を解きながら検査の選び方から組み合わせ方を学ぶことができるようになっていることです。最終的には治療方針の決定までの流れを身につけることができます。

循環器の検査は、他の領域に比べて画像を判読することが多いため、本書はその点にも十分な計らいがなされています。基礎編で検査についてある程度理解した後、実践編において「出題→解説→解答」をくり返すことで、多くの画像に触れ、この1冊で循環器関連検査の進め方や診断法が自然と身につくように工夫されていると思います。また、本文は端的な文章とし、体裁はできるだけ編ごとに同一にするなど、読者が見やすい紙面とすることで、必要な知識を効率よく習得できるようになっています。そのため、明日からの実臨床にすぐに活かせるようになっています。医学生の際に、共用（CBT）試験や医師国家試験の対策で慣れ親しんだ問題集のような形式で学ぶことができます。

本書の企画・編集は、先に出版された「循環器薬ドリル」と同様に、北里大学医学部循環器内科学の阿古潤哉先生にお願いしました。また、教室員ですべての項目を分担し、執筆していただいたことで、本書においても統一性を保てているように感じます。

ぜひ、本書を活用していただき、循環器診療のスキルアップにつなげていただければ幸いです。一押しの一冊となっています。

2024年2月

東邦大学大学院医学研究科循環器内科学 教授

池田隆徳